

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 100

今月のテーマ

3大資金に次ぐ4番目の固定費、生命保険をチェックする

皆さん、「生命保険という買い物」は実に分かりにくく、面倒くさいと思いませんか?自動車保険や火災保険など、顕在化している損害保険は分かりやすいと言えるが、生命保険の場合それぞれの生活環境などによって大きく異なってくる。ほとんどの方がその必要性を認め、大なり小なり加入している。保険料の支払期間は場合によっては20・30年にも及び、家計の固定費の中に占めるウエイトは少なくないはずだ。そして、その払込保険料の総額たるや、人生の3大資金と言われる住宅資金・教育資金・老後資金の金額と肩を並べるだけに、その加入にあたっては慎重な判断が求められる。

さて、生命保険に加入している皆さんの中で、どれだけのの方がご自身の保険内容を理解されているだろうか…!?実際、生命保険の相談は常に上位にあるし、それぞれの抱えている問題も少なくない。加入している契約の保険金額や保障内容などの問題は勿論、その内容そのものが理解されていないということに問題がある。

高額な買い物をしたにもかかわらず、その内容も理解されず、自分に合ったサイズかどうか分からないというケースが実に多い。いったい、加入するときの状況はどうだったのだろうか?摩訶不思議だ。サイズが大きすぎて無駄な保険料を負担していたり、サイズが小さすぎて目的・必要保障に遠く及ばないこともある。病気やケガの際、ドクターが作成する処方箋は、その人の症状はもとより体格や体質などをも考慮され、その患者だけのものとなる。生命保険だってそうだ。その方の年齢や職業、収入や加入する社会保険、家族構成などが考慮されたフルオーダーでなければならない。生命保険に既製品は馴染まないと言える。また、加入した保険の価値は保険料を払っているだけでは、充実感も満足感もない。ことが起きて、結果としてそれが良かったのかどうか分かる。「時すでに遅し」にならないためにも、保険ありきではなく明確な加入目的があってこそその保険加入でならなければならない。

独身期、結婚、子育て期、老後準備、相続・遺産分割など、それぞれの時期に必要なものは何か?人生そのものを裏打ちするプランでなければならない



4番目の固定費

これまで家計診断として人生上の三大資金「住宅・教育・老後」を取り上げてきた。これらの支出に負けず劣らずの固定費に生命保険料がある。生命保険文化センターが実施した「生活保障に関する調査(個人調査)」によると、年間払込保険料(個人年金保険の保険料を含む)は男性で平均22・8万円、女性で平均17・4万円となっている。同じく生命保険文化センターが実施した1世帯あたりの年間払込保険料(個人年金保険の保険料を含む)は、なんと平均38・5万円(32083円/月)となっている。このまま30年間払い続けると総額は1155万円にも上る。マイホームの次に高い買い物と言われるのもうなずけるし、これだけの出費がされているにも拘らず、目的や必要性と合致していないということはあつてはならない筈だが、意外や意外…生命保険の見直し相談に訪れるきっかけが、「保険料負担が大きすぎる」や「更新毎に保険料が高くなる」などが多いのも、問題の大きさを裏打ちしている。生命保険の加入目的はもとより、これだけ負担の大きい生命保険料が家計の健全化を図る上でも、その分析・診断の緊急性は高く、良く分からない、知らないでは済まされない問題だ。

先ずは知っておかなければならないこと

生命保険は加入すること自体が目的にはあらず。当たり前だが、加入していれば良いってわけではない。一つは入っておかなければなどと、入ることが目的化してしまっているケースも少なくない。先にも述べたように、生命保険の必要性はそれぞれの置かれた環境によって大きく異なる。新規加入や見直し前に知っておかなければならないことは結構多い。目的ごとの知っておくべきことを、この後に整理してみよう。



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“ご加入中の火災保険は大丈夫!?”

近年、局地的な豪雨や落雷、竜巻、異常な大雪などにより家屋や家財の損害が増えております。現在ご加入中の火災保険でしっかり対応できますか?ぜひ補償内容をチェックしてみましょう!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
total life support 募集代理店

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:30~18:30
● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

● 紳士服のコナカ
● エネオス
● すずきクリニック
● 当店
● マクドナルド
● かんきょう
● 洋服の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

● 生命保険の主な目的

生命保険というと最初に死亡時の保障をイメージされる方が多いと思うが、実は守備範囲とするのは結構広いものがある。生命保険の目的を分かりやすくするため、「死亡時の保障」と「生きるための保障の2つに分類し、主なものを下の表にまとめてみたので参考にしてほしい。(表1)

＜死亡時の保障＞	＜生きるための保障＞
①遺族の生活資金	①医療保障資金
②負債の整理資金	②就業不能時の資金
③死亡時の整理資金	③介護資金
④子どもの育英資金	④子どもの教育資金準備
⑤相続・遺産分割	⑤老後生活資金

これらのように、単に死亡時の保障のみならず、特定の目的のためにお金を貯めるという性格をも、持ち合わせていることがお分かりいただけるであろう。目的が明確になることによって、選ぶべき保険の種類が見えてくるし、逆に必要のないものも見えてくる。必要なものを必要なだけ「つまみ食い」することで、必要な保障を最小限のコストで調達できるし、裏を返せば必ずしも必要がない特約の無駄な保険料負担を回避できることにもなる。それぞれの事情によって異なる生命保険の必要性は、これらを前提とした「フルオーダー」でなければならぬ。

● 死亡時の保障と必要性

死亡時の保障を考える際、その大前提になるのが「公的保障」。さらには「勤務先からの保証」、そして「私的な準備済み資金」を先ずは知らなければならぬ。これらの「知っておかなければならないこと」が、先ずは理解できていて、「あと足りないはいくらか」がスタートでなければならぬ。では、その確認すべき事項を整理してみよう。

すでに確保されているこれらの保障や準備が、どれだけあるのかが分かって初めて必要保障の計算が成り立つ。これらの準備済み資金の全てを、自身で把握するのは困難なものもある。是非「家計のホームドクター」、かかりつけのFP(ファイナンシャルプランナー)を持ってもらいたい。

①遺族の生活資金
一家の経済の柱である(生計の中心者)に万一のことがあつた場合、残された家族が生活していくための資金だ。この部分は比較的わかりやすいと思うが、重要な必要資金の全てを生命保険で賄う必要もないということだ。準備を必要とする金額は次の計算式が成り立つ

【必要保障＝遺族の生活費－準備済み資金】

残された配偶者の収入が、その後の生活を支えられるのであれば、生命保険で無理をする必要もないが、扶養家族が多く、子どもが小さいほど、高額の資金が必要となる。一方、独身の方や専業主婦、子供が独立した家庭では高額の生命保険の必要性は低くなる。

②負債の整理資金

万一のことがあつた場合、遺族に負債が残ってしまうことは大きな問題だ。住宅ローンの場合は「団体信用生

命保険」で残債は清算されるのが普通だが、フラット35などの場合、任意加入であることから未加入であったり、解約してしまつている場合があるので注意が必要だ。また、リフォームローン、マイカーローン、事業用の債務も確認しておく必要がある。

③死亡時の整理資金
死亡時の整理資金は葬儀費用や墓石の購入、その他諸費用など、大なり小なりかかる費用だ。預貯金等で準備しておくということもあるが、早めに終身保険等を利用して、少ないコストで準備出来るというメリットもある。

④子どもの育英資金
家計の中心者に万が一のことがあつた場合、子供が高校大学を卒業するまでに必要とする資金であるが、その金額は、進学コースによって異なり、私立及び自宅通学以外の場合には、高額な資金が必要となる。就学前、就学中の子供がいる方全てが対象であるが、「あしなが育英会」各種奨学金制度の利用などを含めた対策であつてほしい。

⑤相続・遺産分割
他の①～④の資金が、万が一の時に発生する経済的な損失を補填するのに対し、「相続遺産分割」は資産の保全や相続税の対策、相続のトラブルを未然に防ぐなどの意味合いが大きい。性格は異なるものの、生命保険の利用は大きな効果をもたらすものとして知られているし、賢く利用するべきものである。

● 生きるための保険

死亡保障が死亡を原因とするのと違い、生きるための保障はさらに分けて考えなければならぬ。表中の「生きるための保障」を、あえて2つに分類すると「保障と「資金(資産)準備」に分けられる。

■保障編

①医療保障

医療保障はその内容に踏み込むと、入院・手術・先進医療・三大疾病給付金・通院などがそれだ。これらの保障を考える上では、加入する健康保険の種類と制度内容、高額療養費の仕組みと給付金の種類と金額、さらには先進医療(全額自己負担)の仕組みとその治療費について理解しなければならぬ。高額療養費は所得区分によって自己負担額は異なるし、場合によっては医療保険に頼らなくても自己防衛できる方もいる。しかし、先進医療などは300万円を超える治療も存在し、病気と闘うための、保険らしい保険、と言えるのかもしれない。

②就業不能

こちらは働けなくなった場合(病気やケガによる療養、障害状態や介護状態になった場合)の所得の減少を補填するものである。「協会けんぽ」などへの加入者の場合は、就業不能が4日以上になった場合、傷病手当金が1年6ヶ月を限度として支給されるが、その期間を超えた場合や、国民健康保険の被保険者には傷病手当金そのものがない。また、労災加入者が、業務または通勤を原因とする傷病で働けなくなった場合、休業(補償)給付として4日目から

1年6ヶ月の間休業(補償)給付及び休業特別給付金が受けられる。問題は給付期間を超える場合や、これらの給付が受けられない方の場合、死活の維持そのものに大きな影響を及ぼす。特に住宅ローンなどの負債を抱える世帯の場合は深刻で、ある意味では死亡のリスクよりもその強度は高いのかもしれない。

③介護資金

要介護状態になった場合に、公的介護保険ではカバーされない自己負担額(公的介護保険自己負担額、支給限度額の超過額、初期費用、老人ホーム入居一時金等)に備える資金で、主に40歳以降の方が対象となる。世界有数の長寿国となり、併せて要介護認定者も増え続け、核家族化の進行で親族での介護も難しくなっている中、預貯金で対応できるのか、任意加入の介護保険を必要とするのか、いずれ避けて通れない問題だけに必要額を準備しておきたい。

■資金準備編

①教育資金は子供が高校、大学を卒業するまでに必要な資金で、代表的なものとして学資保険がある。最も特徴的なのは、契約者に万が一のことがあつたとその先の保険料は免除され、満期時には契約通りの満期学資金が支払われるもので、教育資金準備としての利便性は高い。教育資金自体の総額は進学コースによって異なるが、学資保険だけではなく、自己資金・奨学金・親族からの教育資金贈与などを含めたプランニングをしなければならぬ。

②老後生活資金は定年退職後のご夫婦の生活資金であるが、毎月の生活費から退職金・老齢年金・企業年金・預貯金、その他の収入等準備済み資金を差引いて計算する。ほとんどの場合、公的年金だけでは老後資金は不足してしまふ。世帯によって公的年金の受給額は大きく異なることから、先ずは公的年金の受給金額を確認し、不足資金は早めの準備を始めたものだ。

● リスクありき…!!

生命保険は加入ありきではないことは先に述べた通りであり、また保障だけという訳でもない。それぞれの世帯での将来的な目標や事情が、先ずは見えていて、そこに存在するリスクが保障で手当てすべきであるかの判断が始まりだ。もし、生命保険を利用する必要がある場合でも、公的保障をはじめとする、準備済み資金を理解し、それを補完するものとして検討されなければならない。

生命保険の見直しの中で、つくづく感じることは、それぞれの世帯での必要性と加入する生命保険のミスマッチだ。第4の固定費としての高額な買い物が無駄なものであつてはならないし、将来の暮らしを展望する、「安心を裏打ちする保険」であつて欲しい。保険はリスクありきだし、そのリスクのチェックはライフプランニングから始まる。

● 来月号は…

生命保険はその誕生以来、時代の変化に合わせて、大きく変化し保障内容も多様化し、ますます複雑化している。そこで、今どきの保険事情を具体的に解説してみよう。